

# 令和5年度 学力向上に係る効果的な取組事例

## 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指した取組 行田市教育委員会

### 1. 行田市学力向上推進委員会の実施

本市では、各校の学力向上推進担当者を委員とする行田市学力向上推進委員会を組織し、学力向上に向けた協議を実施している。今年度は、主体的・対話的で深い学びの授業実施に向けた教員用の教材である「うきしろスタンダード」の改訂を行った。その際、タブレット等のICTを活用した授業や「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指した授業づくりのポイント等についても協議を行い、示すこととした。その際に出された意見は、以下に示すとおりである。完成版を令和5年度末に各校に配付し、令和6年度より授業づくりの視点としていく。

導入	<p>「問い」や「思い・願い」を引き出し、学習課題を明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ～なのでしょう。</li> <li>・なぜそう思ったの。</li> <li>・本当にできるのかな。</li> <li>・～は、全てにあてはまるのかな。</li> </ul>	<p><b>1. 「問い」の引き出しと問題の理解</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の興味関心を大切にした「問い」や「課題」を設定する。</li> <li>・様々な資料を比較したり、関連付けたりする。</li> <li>・既有的知識を利用し、与えられた文章・図等を理解する。</li> </ul> <p>【活用例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆学習資料（動画等）の拡大提示装置での提示（学習者機への提示）</li> <li>→導入の説明を明確化するために画面共有</li> <li>☆共同編集ファイルの作成と共有</li> <li>→気付きや考えの記入し、グループ学習</li> <li>☆カメラ機能の活用</li> <li>→情報収集や記録の手段として活用</li> </ul>
	<p>課題の追究・解決の見通しをもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで学習したことで、使えそうなことはないですか</li> <li>・解決するために、どんな工夫ができそうですか。</li> <li>・～は、どんな動きをするのかな。</li> </ul>	
展開	<p>課題の追究・解決に取り組ませる。（ペア・グループ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どうやって考えたのかな。</li> <li>・もう少し詳しく聞かせてください。</li> <li>・似ている考えを集めてみよう。</li> <li>・～さんと～さんの意見はどこが違うのかな。</li> </ul>	<p><b>2. 問題の解決・共有</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仮説や見通しに基づいて問題を解決する。</li> <li>・課題解決の方法や学習の進捗を児童生徒が設定できるようにする。</li> </ul> <p>※学習の孤立化を防ぎ、深い学びの実現を促すため、個別での学習だけでなく、協働して学習に取り組む場を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の解決方法を知り、自分の解決方法との共通点・相違点を理解する。</li> <li>・他者の意見を参考にしながら、自分の考えや解決方法を見直したり、深めたりする。</li> </ul> <p>【活用例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆ホワイトボード機能の活用（共同編集）</li> <li>→付箋機能を用いて、お互いの意見を共有し合う。</li> <li>→互いの意見を比較・分類・関連付けをする。</li> <li>☆拡大提示装置で学習者機を全体へ提示（学習支援ソフトの活用）</li> <li>→様々な考え方を全体ですぐに確認。全体の考えをまとめる。</li> </ul>
	<p>課題の追究・解決をより深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・～と～を比べて考えるとどうですか。</li> <li>・～の視点から考えるとどうですか。</li> <li>・言い換えるとどういうことかな。</li> <li>・～と～をまとめるとどうなりますか。</li> </ul>	
終末	<p>ねらいと対応して自分の言葉で振り返らせ、新たな学びへの意欲付けを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出た意見の中でどれが一番納得できましたか。</li> <li>・まとめると、どういうことですか。</li> <li>・今日の学習で分かったことは何ですか。</li> <li>・日常生活に使えると思ったことはありますか。</li> <li>・もっと調べてみたいことはありますか。</li> </ul>	<p><b>3. 問題の熟考と学習の振り返り</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・解決して得られたことや解決方法の過程及び結果について振り返る。</li> </ul> <p>※振り返りの視点を示し、成長を実感できる効果的な活動とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめから新しい情報や問題点・視点の共有と次の学びへ接続する。</li> </ul> <p>【活用例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆アンケート機能や小テスト機能の活用</li> <li>→学習を受けて、児童生徒の考えを集約し、次の学習に生かしていく。</li> <li>→学習内容の定着や発展的な考え方を広げられるよう、適用問題を作成し、学習内容の定着状況を確認する。</li> </ul>

## 2. 各学校における実践例

### 実践例1

- 教科名 生活科（小学校第2学年）
- 单元名 「うごく うごく わたしのおもちゃ」
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた工夫

自分で製作したおもちゃが動く様子を毎時間タブレットに録画し、それを見直すことで学びの成果について確認することができるようにした。児童は各自でおもちゃの工夫を考える際に、前時に撮影をした動画を確認することで、スムーズに活動を始めることができた。また、その動画を他の児童と見合うことで、児童同士の意見交換が活発となり深い学びへとつなげることができた。さらに、ICTを活用するとともに児童が個人で試行錯誤ができる場（おもちゃが走ったり、飛んだりしたときの距離を測定できる）や様々な材料を用意することで、児童一人一人が課題に沿って意欲的に学習を進めることができた。

製作したおもちゃを記録に残す



### 実践例2

- 教科名 社会科（小学校第5学年）
- 单元名 「水産業のさかんな地域」
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた工夫

児童からの水産業に関する疑問をもとに単元計画を作成し、学習課題を設定し、その課題解決に向けた学習方法を児童一人一人が選択できるようにした。インターネットや図書資料、資料集を各自で選択するだけでなく、個人で取り組むのか、少人数グループで取り組むのかといった学習形態についても選択することで、自身に合った方法で学習に取り組むことができた。これにより、児童の学習に対する意欲が高まり、新たに生じた疑問についても積極的に調べる姿が見られた。教師は、児童の学習の進捗を確認しながら、個別に指導をすることはもちろん、学習漏れがないように必要に応じて全体で共有する時間を設定した。

課題解決の方法を選択して、学習に取り組む

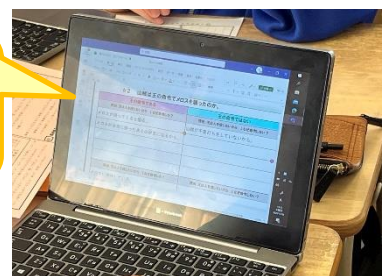


### 実践例3

- 教科名 国語科（中学校第2学年）
- 单元名 「物語の空所を読み、自分だけの物語を書こう」
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた工夫

生徒が意欲をもって学習に取り組むことができるよう、生徒が教材に対して感じた疑問をもとに学習課題を設定した。生徒は課題を解決するために個人もしくは少人数グループを選択して、学習に取り組めるようにした。MicrosoftのTeams上に「国語教室」というフォルダを作成し、その中には前時までの学習の要点が保存してあり、閲覧することが可能である。また、生徒が学習課題に取り組む中で、参考にした叙述や考え方の視点を「ヒントルーム」に書き込めるようにしてあり、それを他の生徒が必要に応じて参考にしてできるようにした。これによりつまずきを感じている生徒に効果的な支援を行うことができた。

「ヒントルーム」に自分の考えを入力する



今年度の実践例を他の小・中学校に周知するとともに、「改訂版うきしろスタンダード」を活用した授業改善を図り、児童生徒一人一人の学力向上につなげていく。

令和5年度 学力向上に係る効果的な取組事例

「個別最適な学びの充実に向けて」  
加須市教育委員会

「個別最適な学び」を目指した取組事例

事例1 個の理解度に応じた授業形態の工夫

○教科名 算数

○身に付けたい力 自力解決する意欲、柔軟的な思考、知識の定着

○個別最適な学びへ向けた工夫 児童の理解度に応じて少人数指導体制を構築した。

加須小学校 算数 授業スタイル【ベーシック】	
目標	具体的な学習活動例（・児童の活動）
基礎	1 異議の検閲 筋節の振り返り ・これまで学びの振り返り。・分かっていることを確認しよう。
	2 筋節の把握（どんな筋節か、確かめよう） ・わかっていること、聞いていないことをしっかりと確認しよう。 3 善えの手帳（善えを多量しよう） ・善えを手帳し、筋節の把握しよう。 4 筋節を把握し、筋節の把握（今日の筋節を把握しよう） ・本時の筋節から筋節を導き、ノートに書くこと。 5 筋節の把握し（筋節の把握しを立立てよう） ・本時で学んだ筋節を振り返る。聞いていない筋節はなかったか考えよう。
応用	6 自力解決（自力解決しよう） ノート ・「何故か、言葉や文で説明しよう」ことで、自分の善えをノートにまとめるよう。 ・他の方法でも解けるか考えよう。 ・筋節の把握し、筋節の把握しよう。
	7 善えの把握（自分の善えを把握しよう） ノート ・ペアワークで自分の善えを把握しよう。 ・ペアワークで、筋節の把握しよう。 ・筋節の把握し、筋節の把握しよう。
発展	8 振り返り（よりよい善えを振り返りよう） ノート ・クラスワークで、自分の善えを把握しよう。 ・クラスワークで、筋節の把握しよう。 ・自分の善えと筋節の把握を比較しよう。 ・筋節の把握し、筋節の把握しよう。 ・筋節の把握し、筋節の把握しよう。
	9 まとめ（筋節のまとめよう） ノート ・今日の筋節の把握し、筋節の把握しよう。 ・筋節の把握し、筋節の把握しよう。
応用	10 筋節の把握、筋節の把握（筋節の把握しよう） ノート ・筋節の把握し、筋節の把握しよう。 ・筋節の把握し、筋節の把握しよう。
	11 振り返り（振り返りタイムに取り組みよう） ノート ・本時の学び（善えや筋節など）をノートに書くこと。 ・今日の学びを振り返る。

加須小学校 算数 授業スタイル【スタンダード】	
目標	具体的な学習活動例（・児童の活動）
基礎	1 異議の検閲 筋節の振り返り ・これまで学びの振り返り。・分かっていることを確認しよう。
	2 筋節の把握（どんな筋節か、確かめよう） ・わかっていること、聞いていないことをしっかりと確認しよう。 3 善えの手帳（善えを多量しよう） ・善えを手帳し、筋節の把握しよう。 4 筋節を把握し、筋節の把握（今日の筋節を把握しよう） ・本時の筋節から筋節を導き、ノートに書くこと。 5 筋節の把握し（筋節の把握しを立立てよう） ・本時で学んだ筋節を振り返る。聞いていない筋節はなかったか考えよう。
応用	6 自力解決（自力解決しよう） ノート ・「何故か、言葉や文で説明しよう」ことで、自分の善えをノートにまとめるよう。 ・他の方法でも解けるか考えよう。
	7 善えの把握（自分の善えを把握しよう） ノート ・ペアワークで自分の善えを把握しよう。 ・ペアワークで、筋節の把握しよう。 ・筋節の把握し、筋節の把握しよう。
発展	8 振り返り（よりよい善えを振り返りよう） ノート ・クラスワークで、自分の善えを把握しよう。 ・クラスワークで、筋節の把握しよう。 ・自分の善えと筋節の把握を比較しよう。 ・筋節の把握し、筋節の把握しよう。
	9 まとめ（筋節のまとめよう） ノート ・今日の筋節の把握し、筋節の把握しよう。 ・筋節の把握し、筋節の把握しよう。
応用	10 筋節の把握、筋節の把握（筋節の把握しよう） ノート ・筋節の把握し、筋節の把握しよう。 ・筋節の把握し、筋節の把握しよう。
	11 振り返り（振り返りタイムに取り組みよう） タブレット ・本時の学び（善えや筋節など）をタブレットに書くこと。 ・今日の学びを振り返る。

加須小学校 算数 授業スタイル【アドバンス】	
目標	具体的な学習活動例（・児童の活動）
基礎	1 異議の検閲 筋節の振り返り ・これまで学びの振り返り。・分かっていることを確認しよう。 高次の筋節や筋節、筋節の把握し、筋節の把握しよう。
	2 筋節の把握（どんな筋節か、確かめよう） ・わかっていること、聞いていないことをしっかりと確認しよう。 3 善えの手帳（善えを多量しよう） ・善えを手帳し、筋節の把握しよう。 4 筋節を把握し、筋節の把握（今日の筋節を把握しよう） ・本時の筋節から筋節を導き、ノートに書くこと。 5 筋節の把握し（筋節の把握しを立立てよう） ・本時で学んだ筋節を振り返る。聞いていない筋節はなかったか考えよう。
応用	6 自力解決（自力解決しよう） ノート ・「何故か、言葉や文で説明しよう」ことで、自分の善えをノートにまとめるよう。 ・他の方法でも解けるか考えよう。
	7 善えの把握（自分の善えを把握しよう） ノート ・ペアワークで自分の善えを把握しよう。 ・ペアワークで、筋節の把握しよう。 ・筋節の把握し、筋節の把握しよう。
発展	8 振り返り（よりよい善えを振り返りよう） ノート ・クラスワークで、自分の善えを把握しよう。 ・クラスワークで、筋節の把握しよう。 ・自分の善えと筋節の把握を比較しよう。 ・筋節の把握し、筋節の把握しよう。
	9 まとめ（筋節のまとめよう） ノート ・今日の筋節の把握し、筋節の把握しよう。 ・筋節の把握し、筋節の把握しよう。
応用	10 筋節の把握、筋節の把握（筋節の把握しよう） ノート ・筋節の把握し、筋節の把握しよう。 ・筋節の把握し、筋節の把握しよう。
	11 振り返り（振り返りタイムに取り組みよう） ノート ・本時の学び（善えや筋節など）をノートに書くこと。 ・今日の学びを振り返る。

「授業スタイル」「話し合いスタイル」「振り返りレベル」を習熟度別に作成した。  
見通しをもち、自分のペースで学習に取り組むことができる児童が増加した。  
自力解決ができるようになった児童や柔軟に友達の考えを取り入れられる児童が増加した。



クラスで話し合うこと  
によって  
『知識の定着』  
につながった。



ペアで話し合うこと  
によって  
『自力解決』  
につながった。



グループで話し合うこと  
によって  
『柔軟的な思考』  
につながった。

## 事例2 ICTを活用した複線型授業

- 教科名 数学
- 单元名 図形の調べ方・多角形の角
- 身に付けたい力 課題解決能力
- 一人一台端末を生かした個別最適な学びへの工夫

google classroom で班に1つの google Jamboard を配布。複線化で自力解決を進める。  
教師は Jamboard の様子と実際の様子を踏まえ、ファシリテートした。

学年	中学校2年	単元・題材	図形の調べ方・多角形の角	ICT活用のポイント					
教科	数学	本時の目標	平行線や多角形の角についての性質を思いだし、それをもとに角度の求め方を説明することができる<思考力、判断力、表現力等>	・課題提示から振り返りまで、フルデジタルの複線型授業に挑戦します。 ・グループのメンバーで共有されたGoogle Jamboardをワークシートに、生徒自身が個人で学習を深めるのが、協働的に学習するのを選択し、課題解決を目指します。					
単元の概要	<p>1 直線と角の学習 図形の性質を調べるとき、その図形をつくっている「線分の長さ」や「角の大きさ」に着目していく。</p> <p>2 平行線の性質と平行線になるための条件 同位角と錯角の用語を導入して、平行線の性質と平行線になるための条件を学ぶ。</p> <p>(本時) 3 三角形の内角の和、多角形の内角の和・外角の和 三角形の内角の和の証明を補助線を用いて確認する。また、内角の和を根拠としながら外角の和について考える。</p> <p>4 証明の必要性和意味 すでに正しいと認められていることから根拠として、仮定から結論を導く。</p> <p>5 論証の根拠となることからあることから証明するために、別のことがらを根拠として使う。</p> <p>6 合同条件と証明の進め方 三角形の合同条件を使って、角の二等分線の作図法が正しいことを証明する。</p>								
使用するアプリケーション等	<ul style="list-style-type: none"> <li>Google Classroom</li> <li>Google Jamboard</li> <li>Geo Gebra</li> </ul>								
本時の計画	<p>1 導入</p> <p>① 問題提示 学習問題 右の図形における<math>\angle X</math>の角度を求めよう  <ul style="list-style-type: none"> <li>へこみのある図形の角度を求めることを確認</li> <li>大型提示装置に投影して、全体共有する</li> </ul> </p> <p>② 学習課題・学習活動の確認 学習課題 いろいろな方法で<math>\angle X</math>の角度を求めよう  <ul style="list-style-type: none"> <li>学習の進め方を確認する(※無関係を参照)</li> <li>GoogleClassroomで、班に1つのGoogle Jamboardを配布する</li> </ul> </p> <p>&lt;配布するGoogle Jamboardの構成&gt;</p> <table border="1"> <tr> <td>ボード1 本時の課題 活動の見直し</td> <td>ボード2 Aさんの ワークシート</td> <td>ボード3 Bさんの ワークシート</td> <td>ボード4 Cさんの ワークシート</td> <td>ボード4 Dさんの ワークシート</td> </tr> </table> <p>ヒントのリンク集 ※ボード1、リンク集は教師が準備 ボード2~4は、本時の問題場面(図形)を背景に設定</p> <p>2 展開 &lt;複線化(自力解決・共同学習・教員からの支援)&gt;</p> <p>① Google Jamboardを使って一人一人が角度を求めていく  <ul style="list-style-type: none"> <li>一人で求めていく中で、班のメンバーの解き方を確認しても良い</li> <li>他の人の解き方でわからないところがあれば聞いても良い</li> <li>必要に応じてヒントを確認しても良い</li> <li>教員のとこで質問しても良い</li> </ul> </p> <p>○教員は生徒の Google Jamboardの様子と実際の様子を踏まえ、個別にファシリテートする。      一例①: 自分の学び方が見つからない生徒に対し、参照するべきヒントや相手を紹介したり、教員とともに学習することを勧めたりする など      一例②: 納得のいく解法が見つかった生徒に対し、異なる解法を発見するよう促したり、友達に解法を説明するなどのアウトプットを促したりする など</p> <p>3 まとめ ① いくつかの求め方を全体で共有する  <ul style="list-style-type: none"> <li>共有する考えを事前に教員が把握しておき、大型提示装置に投影して全体に共有する</li> <li>平行線の同位角、錯角を利用する方法</li> <li>三角形の内角の和を利用する方法(内角と外角の関係も含む)</li> </ul> </p> <p>4 振り返り ① 自己評価カードを記入する</p>				ボード1 本時の課題 活動の見直し	ボード2 Aさんの ワークシート	ボード3 Bさんの ワークシート	ボード4 Cさんの ワークシート	ボード4 Dさんの ワークシート
ボード1 本時の課題 活動の見直し	ボード2 Aさんの ワークシート	ボード3 Bさんの ワークシート	ボード4 Cさんの ワークシート	ボード4 Dさんの ワークシート					
補足資料・説明	<p>&lt;生徒のワークシートとGoogle Jamboard&gt;</p> <p>※生徒が自身の特性を踏まえて学び方を選択できるよう、紙媒体も用意しておく。 !!ヒント集の例!!</p> <p>※同位角・錯角、教科書の該当ページ補助線など !!生徒の学びの場!!</p>								

## 事例3 学びの保障、家庭学習の充実

- 取組の工夫 google classroom を活用し、その日の授業の内容をタブレットを使い、家庭で振り返ることができるようにした。授業内容に関連した動画を紹介したり、学習にあたってのヒントをコメントしたりすることで、学習意欲を喚起した。
- また、欠席した児童生徒や不登校児童生徒の学びの保障にもつなげた。



毎時間の板書を各教科係が撮影し、Classroom にアップロードした。  
→授業内容の見直しに使用した。  
→家庭でノートのまとめ直しを行わせた。  
→欠席生徒への対応として利用した。

授業で使用したプリントやノート(記入済みのもの)を掲載した。  
→授業内容の見直しに使用した。

令和5年度 学力向上に係る効果的な取組事例

# 「個別最適な学びを実現するための授業改善の工夫」 羽生市教育委員会・羽生市立羽生北小学校・羽生市立須影小学校

## 「個別最適な学び」を目指した取組事例

### 羽生市教育委員会の取組

○埼玉県学力・学習状況調査の分析シートの作成・活用

埼玉県学力・学習状況調査分析シート

個別最適な学びを推進するためには、教師による根拠に基づいた児童生徒理解が不可欠である。そこで羽生市では、全学校において今年度より埼玉県学力・学習状況調査の個票を基にした「埼玉県学力・学習状況調査分析シート」を作成し、活用を図っている。

埼玉県学力・学習状況調査結果の分析及び重点取組										学級名		作成者名		
学年	性別	基礎・基本	学力	学習態度	学習意欲	学習習慣	学習環境	学習方法	学習成果	学習意欲	学習習慣	学習環境	学習方法	学習成果
6学年	男子	4.2	3.8	3.8	3.7	4.1	4.4	3.6	3.0					
6学年	女子	4.0	3.8	3.8	3.7	4.1	4.0	3.6	3.0					
6学年	男子	4.0	3.6	3.6	3.5	3.9	4.0	3.4	3.1					
6学年	女子	4.0	3.5	3.5	3.4	3.8	4.0	3.5	3.1					
6学年	合計	4.0	3.7	3.7	3.6	4.0	4.2	3.6	3.1					

埼玉県学力・学習状況調査の結果から、担任が気になる児童生徒を抽出する。該当者の帳票40の該当部分を分析シートに張り付け、学校の様子・家庭地域での様子・解答傾向・今後の取組等について記入する。作成したシートは、校内研修等で共有し、学校全体で個に応じた指導の仕方を共有できるようにしている。

### 事例1

### 羽生市立羽生北小学校の取組

○学年 6学年

○教科名 算数

○単元名 「角柱や円柱の体積」

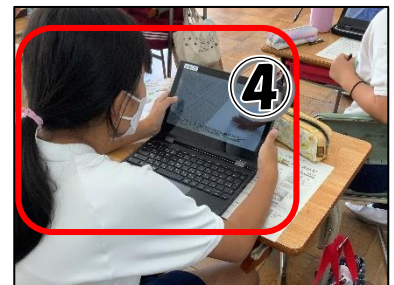
○身に付けたい力 自分の学力を把握した上で、自己調整して学習する力

○個別最適な学びへ向けた工夫

- 単元の最後に確認問題として、教科書の「しあげ」問題を行う。本校6学年児童は、学力差が大きかった。そこで、自分の習熟度に合わせて、学習法を自分で選択して学習を進められるようにした。①個人で「e-ライブラリー」などを活用して様々な問題を解く。②少人数グループでできなかった問題をタブレットや教科書を参考にしつつ対話を通して解き直す。③適宜先生や友達に聞いてできるだけ自分で解く。④動画サイトを活用して個人で問題の解き方を学ぶ。これらの4つの方法から自分で選択し、自己調整して前向きに取り組めるようにした。



様々な学習形態で学ぶ児童



動画を視聴しながら学ぶ児童

事例2

羽生市立須影小学校の取組

○学年 6学年

○教科名 体育

○単元名 跳び箱運動

○身に付けたい力

- 自分の動画から課題を見付け、それに合った練習をする力
- 友達の動きを見て、アドバイスできる力

○個別最適な学びへ向けた工夫

① 動画を活用した振り返り (Google スライド、form)

①	単元全体の見通しをもたせ、振り返りを行いやすいように、毎時間のシートを分けて作成した。
②	毎時間撮影した動画を貼り付け、技能の上達を実感でき、課題の分析をしやすいようにした。(下のイラストと同じ向きになるように撮影し、比較しやすいようにした。)
③	イラストと本時のめあてとなる部分を提示し、ポイントを意識しやすいようにした。
④	振り返りは、3項目に分けた。特に、「自分のイメージや意識したこと」と「実際の動き」がどれくらい一致しているかに注目させ記入できるようにした。
⑤	形成的評価のアンケートのリンクを貼り付け、スムーズに回答できるようにした。

②自分の課題に合わせた練習方法の選択肢の提示

課題	三点倒立ができない…	体が反れず、 台上前転になってしまう	はねのタイミングが合わない、わからない…
練習方法	<input type="checkbox"/> マットで三点倒立 <input type="checkbox"/> 跳び箱で三点倒立	<input type="checkbox"/> ②③三点倒立→ブリッジ <input type="checkbox"/> 背倒立→ブリッジ	<input type="checkbox"/> 背倒立→ブリッジ <input type="checkbox"/> ④三点倒立→頭はね跳び <input type="checkbox"/> ステージから頭はね跳び

※感…感覚づくりの運動

②～④…第2～4時までの練習

令和5年度 学力向上に係る効果的な取組事例




「個別最適な学び」を目指した取組事例

春日部市教育委員会

1 授業の充実 ～児童生徒全員が「できた」を味わおう～




実践1

ICT を活用し、個別最適な学びを実現

学年	中学校 第3学年	教科等	国語
単元名	君待つと——万葉・古今・新古今		
個別最適な学びに向けた工夫			
身につかせたい力	和歌を現代詩としてアレンジして写真などと組み合わせて味わう いつの時代も変わらない普遍的なものの見方や考え方に気づく		
工夫	①和歌集の中から和歌を選ぶ。(教科書以外のものも可。インターネット検索可。) ②選んだ和歌を現代詩にする。(十分な時間を確保する) ⇒ 生徒の実態に応じて、教師が支援する。 ③その歌が表現している情趣・感情(歌の核心)は何か。鍵になる語句や表現に注目して解説を作成する。 ④イメージに合う写真を撮ったり、インターネットで検索して、組み合わせる。(生徒個々の進度に応じて) ⑤グループで発表 ⇒ 完成した作品は、クラスルームで共有する。		
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>自力解決</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>相談</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>発表</p> </div> </div>			

実践2

自分に合った場を選び、個別最適な学びを実現

学年	小学校 第2学年	教科等	体育
単元名	跳び箱を使った運動遊び～忍者でござる！修行でござる！跳び箱ランドで忍者修行～		
個別最適な学びに向けた工夫			
身につかせたい力	・友達のよい動きを見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えること ・自分の力に合った場で、自分の動きをレベルアップすることができること		
工夫	①単元で身につかせたい力の内容に即した「感覚づくりの運動」の時間を大切にし、運動が苦手な児童も「できた」という達成感を味わえるようにする。 ⇒ 一人一人の伸びを教師が称賛する。 ②チャレンジタイムとして、自分の力に合った場で挑戦をする。		
	・落とし穴の場・・・落とし穴の距離を変えたり、障害物の数を変えたりする ・丸太の場・・・跳び箱で丸太を作り、その長さを変える ・城上りの場・・・ステージ(城)に上るまでの跳び箱の高さを変える	} 良い動きを子供どう して称賛する。	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>城上りの場</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>丸太の場</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>落とし穴の場</p> </div> </div>			

# 2 教師の指導力向上 ~よりよい授業を目指して~

## 事例1

### 春日部市教育研究員協議会（情報部会）による「春日部モデル」の作成

春日部市では、児童生徒に身に付けさせたい情報活用能力を体系的にまとめた「春日部モデル」の作成を進めている。

分類	学習者	小学校			
		低学年	中学年	高学年	中学校
A 活動スキル 	A1: PCの操作	<input type="checkbox"/> コンピュータの起動や終了 <input type="checkbox"/> 電子ファイルの呼び出しや保存	<input type="checkbox"/> キーボードなどによる文字の正しい入力方法 <input type="checkbox"/> 電子ファイルの検索	<input type="checkbox"/> キーボードなどによる文字の正確な入力 <input type="checkbox"/> 電子ファイルのフォルダ管理	<input type="checkbox"/> キーボードなどによる十分な速さで正確な文字の入力 <input type="checkbox"/> 電子ファイルの運用(圧縮・パスワードによる暗号化、バックアップ)
	A2: 記録と編集	<input type="checkbox"/> 写真撮影 <input type="checkbox"/> 画像編集、ペイント系アプリケーションの操作	<input type="checkbox"/> 動画撮影 <input type="checkbox"/> 映像編集アプリケーションの操作	<input type="checkbox"/> 目的に応じたアプリケーションの選択と操作	<input type="checkbox"/> 目的に応じた適切なアプリケーションの選択と操作
	A3: 情報収集	<input type="checkbox"/> 身近なところから様々な情報を収集する方法(図鑑等・インタビュー観察等)	<input type="checkbox"/> インターネット上の情報の閲覧・検索 <input type="checkbox"/> 調査や資料等による基本的な情報の収集の方法(新聞・インタビュー等)	<input type="checkbox"/> 電子的・情報の選定・AND、ORなどの論理演算子を用いた検索 <input type="checkbox"/> 調査や実験・観察等による情報の収集と検証の方法	<input type="checkbox"/> 情報通信ネットワークなどからの効果的な情報の検索と検証の方法 <input type="checkbox"/> 調査の設計方法 <input type="checkbox"/> クラウドを用いた協働作業
	A4: 口頭発表等	<input type="checkbox"/> 相手に伝わるような発表の方法	<input type="checkbox"/> 相手や目的を意図した発表の方法	<input type="checkbox"/> 聞き手とのやりとりを含め効果的なプレゼンテーション方法	<input type="checkbox"/> Webページ、SNS等による発信・交流の方法 <input type="checkbox"/> 安全・適切なプログラムによる表現・発信の方法
B 探求スキル 	B1: 課題の設定・学習計画	<input type="checkbox"/> 体験や活動から感じた不思議や疑問から課題を発見・設定する <input type="checkbox"/> 決められた計画によって見直しをもつ	<input type="checkbox"/> 収集した情報から課題を発見・設定する <input type="checkbox"/> 目的を定めて、課題解決に向けた情報活用の見直しを立てて取り組む	<input type="checkbox"/> 地域や社会の事象から課題を発見・設定する <input type="checkbox"/> 課題解決のための情報活用の計画を立て、解決に向けて課題に取り組む	<input type="checkbox"/> 条件を踏まえて、課題解決のための情報活用の計画を立て、解決に向けた計画を複数立案し、評価・改善しながら実行する
	B2: 情報の収集	<input type="checkbox"/> 身近なところから課題に関する様々な情報を収集する	<input type="checkbox"/> 調査や資料等から情報を収集する	<input type="checkbox"/> 目的に応じた情報メディアを選択し、調査や実験等を組み合わせて見直しを行う	<input type="checkbox"/> 調査を設計し、情報メディアの特性を踏まえて、効果的に情報を収集する
	B3: 整理分析	<input type="checkbox"/> 集めた情報を仲間分けする <input type="checkbox"/> 簡単な絵や図、表やグラフなどを用いて情報を整理する <input type="checkbox"/> 情報の大枠を捉え、分解・整理する	<input type="checkbox"/> 集めた情報を比較、関連付け等をして、情報の関係性を見出す <input type="checkbox"/> 観点を求める表やグラフ、「考えるための技法」を用いて情報を整理する <input type="checkbox"/> 集めた情報から見出した特徴や関係性をもとに、新たな考えや仮説を見出す	<input type="checkbox"/> 情報の傾向と変化を捉え、強弱点や規則性を見出す <input type="checkbox"/> 目的に応じた表やグラフ、「考えるための技法」を適切に選択し活用し、情報を整理する <input type="checkbox"/> 見出した強弱点や規則性、他の事象にも転用や応用可能な点を見出す	<input type="checkbox"/> 目的や状況に応じて統計的に整理する <input type="checkbox"/> 考えるための技法を活用し、情報を整理する <input type="checkbox"/> 目的に応じた情報活用を通して、情報の傾向と変化を捉え、問題に対する多様な解決策を明らかにする
	B4: まとめ発表	<input type="checkbox"/> 整理した情報を自分の言葉でまとめる <input type="checkbox"/> 相手に意識し、わかりやすく表現する <input type="checkbox"/> まとめたものを使って、わかりやすく伝える	<input type="checkbox"/> 目的や意図に応じて複数の表現手段を組み合わせて表現する <input type="checkbox"/> 自他の情報を組み合わせる表現する <input type="checkbox"/> まとめたものを活用して、わかりやすく伝える	<input type="checkbox"/> 聞き手とのやりとりを含め効果的に表現する <input type="checkbox"/> まとめたものを組み合わせて、わかりやすく伝える	<input type="checkbox"/> プレゼンテーション、Webページ等によって表現・発信、創造する <input type="checkbox"/> まとめたものを組み合わせて、わかりやすく伝える
	B5: 振り返り改善	<input type="checkbox"/> 情報活用を振り返り、活用することの良さを感じ取る	<input type="checkbox"/> 目的や意図を振り返り、改善方法を検討する	<input type="checkbox"/> 情報及び情報技術の活用を振り返り、改善点を論理的に考える	<input type="checkbox"/> 情報及び情報技術の活用を振り返り、改善点を論理的に考える
C システムスキル 	C1: 身近な生活でコンピュータが活用されていることや、問題の解決に役立つ情報の大切さを理解することの重要性を認識すること	<input type="checkbox"/> コンピュータの存在	<input type="checkbox"/> 身近な生活におけるコンピュータの活用	<input type="checkbox"/> 社会におけるコンピュータの活用	<input type="checkbox"/> 情報のデジタル化や情報の自動化の仕組み <input type="checkbox"/> 情報通信ネットワークの構成と、情報を利用するための基本的しくみ
		<input type="checkbox"/> プログラムの役割	<input type="checkbox"/> 簡単な繰り返し、条件分岐、データや変数などを含んだプログラムの作成、評価、改善	<input type="checkbox"/> 重要な処理を行うための適切なプログラムの作成、評価、改善	<input type="checkbox"/> 問題の見・解決のための安全・適切なプログラムの制
	C2: 課題の設定・計画	<input type="checkbox"/> 目的に合わせて自分なりに予想する	<input type="checkbox"/> 目的や意図に合わせて見直しを立てる	<input type="checkbox"/> 目的や意図に合わせて進捗を立てて見直しを立てる	<input type="checkbox"/> 目的や意図、条件を踏まえて、計画を書き進める
		<input type="checkbox"/> 大きな動きをいくつかの小さな動きに分解することに基づく	<input type="checkbox"/> 大きな動きをいくつかの小さな動きに分解する	<input type="checkbox"/> 大きな動きをいくつかの小さな動きに分解する	<input type="checkbox"/> 目的や意図、条件を踏まえて、必要な要素を見出す
		<input type="checkbox"/> 目的に合わせて、必要な要素を選ぶ	<input type="checkbox"/> 目的や意図に合わせて、必要な要素を見出す	<input type="checkbox"/> 目的や意図に合わせて、必要な要素を見出す	<input type="checkbox"/> 目的や意図、条件を踏まえて、必要な要素を見出す
		<input type="checkbox"/> 事象の中に類似性や関係性があることに気づく	<input type="checkbox"/> 事象の中から類似性や関係性を見出す	<input type="checkbox"/> 事象の中から見出した類似性や関係性を用い、問題解決に活用する	<input type="checkbox"/> 事象の中から見出した類似性や関係性を用い、それらを組み合わせて問題解決に活用する
C3: 情報の分類・抽象化	<input type="checkbox"/> 問題解決に向けた手順を考えたことに基づく	<input type="checkbox"/> 問題解決に向けた手順を考えたことに基づく	<input type="checkbox"/> 問題解決に向けた手順を考えたことに基づく	<input type="checkbox"/> 問題解決に向けた手順を考えたことに基づく	
C4: データの分類・傾向	<input type="checkbox"/> 問題解決に手順を考えたことに基づく	<input type="checkbox"/> 問題解決に向けた手順を考えたことに基づく	<input type="checkbox"/> 問題解決に向けた手順を考えたことに基づく	<input type="checkbox"/> 問題解決に向けた手順を考えたことに基づく	
C5: 解決の手順	<input type="checkbox"/> 問題解決に手順を考えたことに基づく	<input type="checkbox"/> 問題解決に向けた手順を考えたことに基づく	<input type="checkbox"/> 問題解決に向けた手順を考えたことに基づく	<input type="checkbox"/> 問題解決に向けた手順を考えたことに基づく	
C6: 評価・分析	<input type="checkbox"/> 考えが正しい理由を述べること	<input type="checkbox"/> 問題解決の過程が適切であったか観察し、改善方法を考える	<input type="checkbox"/> 問題解決に向け、複数の計画を立て実行し、結果と協働しながら評価・改善を考える	<input type="checkbox"/> 問題解決に向け、複数の計画を立て実行し、結果と協働しながら評価・改善を考える	
D 情報セキュリティ 	D1: 情報モラルに気をつけて情報を活用する	<input type="checkbox"/> 人の作った物を大切にすること <input type="checkbox"/> コンピュータなどを利用するときの基本的なルール	<input type="checkbox"/> 情報の発信や情報やりとりする際のルール・マナー <input type="checkbox"/> 情報の発信や情報やりとりする際の責任 <input type="checkbox"/> 自分の情報や他人の情報の大切さ	<input type="checkbox"/> 情報の発信や情報やりとりする際の責任 <input type="checkbox"/> 情報メディアの利用による健康への影響 <input type="checkbox"/> 情報を守るための方法	<input type="checkbox"/> 情報に関する人の権利とその重要性 <input type="checkbox"/> 社会と互いにルール・法律を守ることに伴って成り立っていること <input type="checkbox"/> 情報に関する自分の責任の範囲 <input type="checkbox"/> 健康の面に配慮した、情報メディアとの関わり方
	D2: 情報セキュリティに気をつけて情報を活用する	<input type="checkbox"/> 他者に伝えてはいけない情報(ID・パスワード等)があること	<input type="checkbox"/> 生活の中で必要となる基本的な情報セキュリティ	<input type="checkbox"/> 情報に関する危険性 <input type="checkbox"/> 生活の中で必要となる基本的な情報セキュリティ	<input type="checkbox"/> 情報セキュリティの確保のための対策・対応の必要性 <input type="checkbox"/> 適切な空間の確保・治安維持のための、サイバーセキュリティの重要性

低・中・高学年・中学校のそれぞれの発達段階に応じた4分類（「活動スキル」「探求スキル」「プログラミング」「情報モラル・情報セキュリティ」）を体系的にまとめている。

各学校で年間指導計画に位置づけ、授業や校内研修等で活用されるよう、啓発をしていくとともに、完成後も毎年ブラッシュアップをしていく予定である。

また、春日部モデルと優れた授業実践をリンクさせていく。

## 事例2

### Chromebook 活用研修会等の実施 希望研修



社会教育課生涯学習担当指導主事を指導者として、「Chromebook 活用研修会」「プログラミング教育入門研修」「情報モラル教育研修会」等を希望する教員に実施している。

教員がタブレット端末の基本的な操作や授業で子供たちの学習に活用することができるアプリケーション等について研修し、指導力向上を図っている。

児童生徒だけでなく、教職員も個別最適な学びができる環境を整えている。

このほか、各校の情報教育推進者を中心とした「ICT 管理研修会」「ICT 活用研修会」を実施している。





令和5年度 学力向上に係る効果的な取組事例

## 「一人一台端末を生かした

## 個別最適な学びによる学力向上を目指した実践」

蓮田市教育委員会・蓮田市立黒浜北小学校

### 黒浜北小学校の取組

黒浜北小学校では令和3年度より、「個別最適な学び」「主体的・対話的で深い学び」「協働的な学び」の実現のため、授業改善に取り組み、全ての児童の学力向上を目指してICTを活用した教育実践を進めている。

#### 事例1

○教科名 社会

○単元名 「わたしたちの生活と工業生産」 第5学年

○身に付けたい力 ・主体的に学習問題を追究

・解決しようとする態度

・原材料や資源の多くを輸入している我が国の工業生産の現状の理解

・消費者の需要や社会の変化に対応した新しい技術の開発の重要性への気づき

○一人一台端末を生かした個別最適な学びへ向けた工夫

【第6時】SKYMENU「発表ノート」を活用した意見交流学習

- ① 単元を通して学習してきた日本の工業生産の課題について、自分が一番重要だと思うものを選び、理由と合わせて発表ノートに記入する。その際、考えの根拠となる資料（教員が事前に用意した資料から選んだもの、教科書の必要資料を撮影し、貼付けしたもの等）を活用する。
- ② 同じ課題を選んだ児童同士でグループを作り、考えの交流を行う。課題に対する根拠を明確にもてていなかった児童も、友達の意見を聞くことで自分の考えをもてるようになる。考えの共通点と相違点を意識しながら、全体交流で発表できるようにグループで1枚のまとめスライドを作成する。
- ③ 各グループのまとめスライドを全体で交流する。それぞれの課題について詳しく考える中で、日本の工業が抱える課題同士が関連していることに気付かせる。



#### 事例2

○教科名 図工

○単元名 「どろどろカッチン」 第4学年（鑑賞）

○身に付けたい力 ・自分の作品の工夫した点やイメージ、相手の作品のよさを伝える表現力

・作者の思いを考えたり工夫を知ったりすることによる多様な見方や考え方

○一人一台端末を生かした個別最適な学びへの工夫

【第6時】SKYMENU「発表ノート」を活用した鑑賞

- ① 完成した自分の作品の『見てほしいポイント』として、「芯材として使った材料」「制作時の工夫」「イメージした世界」をタブレット PC で動画に撮る。撮影した動画と制作過程の写真、ポイントを短い文で表したものを SKYMENU「発表ノート」の1枚のスライドにまとめる。
- ② 鑑賞時に気になる作品について自分なりの視点で見たあと、その作品についての動画付きスライドを見ることで作者の思いや工夫を知り、見方や考え方を広げる。動画視聴はイヤホンを使用して、児童一人一人が自分の見たい作品を見たいタイミングで集中して鑑賞できるようにした。



### 事例3

- 取組場面 随時（業前、学期末、自習、家庭学習等）
- 対象 全学年
- 取組内容 ラインズeライブラリを活用したドリル学習
- 一人一台端末を生かした個別最適な学びへの工夫



- ① 基礎基本の定着を図るため、隙間時間を活用してドリル学習に取り組んだ。
- ② 「自由学習」機能を活用して、苦手な部分を全学年に遡って学習したり、発展的な問題に挑戦したりと、児童一人一人が課題意識をもって取り組めるようにした。
- ③ 「学習指示」機能を活用した宿題を出すことにより、授業で学習した内容の定着を図った。
- ④ 「いろいろカード帳」機能を活用し、国語の慣用句や都道府県などを授業の冒頭で反復学習することで、基礎基本の定着を図った。

### その他の取組

- 作成した教材（発表ノート）で効果的であったものは教員間で共有し、授業準備の負担を軽減しながら質の高い教育を実現できるようにした。
- 教員一人一人の力量向上のために、校外でのICT研修会に出席した教員から全教員への伝達研修を行った。
- ICTをツールとして効果的に活用しながら、紙のワークシートやノートの良さも生かした教育実践を行っている。特に低学年では、キーボードによる文字入力は困難なため、紙のワークシートとの併用が効果的であった。
- 特別活動の年間指導計画に情報モラル教育を位置づけ、すごろく、カルタ等の教材を活用したネットリテラシーや情報モラルの指導を行った。

### まとめ

一人一台端末を活用した実践により、児童の①基礎・基本の定着 ②主体的に学習に取り組もうとする意欲 ③自分に合った学習内容・方法の選択 ④児童同士の情報共有による見方・考え方の広がりなどの効果がみられた。教員同士の教材・指導方法の共有やICT推進担当教諭の伝達研修により、全教員のICT活用能力も大きく向上している。

児童一人一人の学力を確実に向上させるために、今後もICTの効果的な活用について教職員一丸となって児童が授業の中で「分かる・できる・伸びる」が掴めるようにさらに深い研鑽を積んでいく。児童のICT活用能力が向上し、多様な使い方ができるようになりつつある状況も踏まえ、今後は正しい使い方についてのネットリテラシーや情報モラル教育についても実践を重ねていく。

「『個別最適な学び』を目指した取組事例」

事例1

ヒントカードの選択



指導の個別化

学 年	小学校 第5学年	教 科	算数 「合同な図形」												
本時の目標	合同な三角形のかき方を活用して、合同な平行四辺形のかき方を考え、説明することができる。														
個別最適な学びへ向けた工夫															
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自力解決の際、考えが進まない児童に、ロイロノート・スクールの資料箱に入っているヒントカードを参考にして、課題を解決させる。</li> <li>・ヒントカードを3種類用意し、自分が分からないことは何か、何が分かれば問題を解決できるのか考えさせ、一人ひとりが必要なヒントカードを選択させる。</li> <li>・ヒントカード活用の有無、活用したヒントカードの種類を確認し、個々の学習状況を把握することで、次時の指導内容・方法の検討につなげ、一人ひとりに学習内容を確実に定着させる。</li> </ul>															
<table border="1"> <tr> <td>小ヒントカード</td> <td>小ヒントカード</td> </tr> <tr> <td>中ヒントカード</td> <td>中ヒントカード</td> </tr> <tr> <td>大ヒントカード</td> <td>大ヒントカード</td> </tr> </table>	小ヒントカード	小ヒントカード	中ヒントカード	中ヒントカード	大ヒントカード	大ヒントカード	<table border="1"> <tr> <td>小ヒントカード</td> </tr> <tr> <td>書き方のヒントを知りたい人へ</td> </tr> </table>	小ヒントカード	書き方のヒントを知りたい人へ	<table border="1"> <tr> <td>中ヒントカード</td> </tr> <tr> <td>解き方のヒントがほしい人へ</td> </tr> </table>	中ヒントカード	解き方のヒントがほしい人へ	<table border="1"> <tr> <td>大ヒントカード</td> </tr> <tr> <td>かきかたを全て知りたい人へ</td> </tr> </table>	大ヒントカード	かきかたを全て知りたい人へ
小ヒントカード	小ヒントカード														
中ヒントカード	中ヒントカード														
大ヒントカード	大ヒントカード														
小ヒントカード															
書き方のヒントを知りたい人へ															
中ヒントカード															
解き方のヒントがほしい人へ															
大ヒントカード															
かきかたを全て知りたい人へ															

事例2

ポートフォリオ評価

指導の個別化

学 年	小学校 第4学年	教 科	図画工作
題 材 名	「つけて、のぼして、生まれる形」 「つないで組んで、すてきな形」		
個別最適な学びへ向けた工夫			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各時間の作成途中の作品を撮りためておき、ロイロノート・スクール上でつなげることで、自分がどのように考え作品作りを行ったのかわかるようにさせ、次のアイデアを想起させる。</li> <li>・撮りためた写真を元に、教員が児童の思考過程や思いを把握し、一人ひとりに必要な指導方法を検討したり、評価に活用したりする。</li> <li>・制作した作品を自宅等で実際に使っている様子を撮影・提出させ、一人ひとりがどのような意図で制作したのか、どのように楽しんだのかをより詳しく把握し、評価にも活用する。</li> </ul>			
			

### 事例3

### AIドリルの活用

指導の個別化

学 年	小学校 第2学年 ~ 中学校 第3学年
教 科	国語、算数・数学、理科、社会、英語（中学校）
活 用 場 面	授業内の適用問題として活用 ・ 家庭学習、長期休業中の課題として活用

個別最適な学びへ向けた工夫

- ・基本問題 → 確認問題 → 応用問題とスモールステップで学習へ取り組ませることにより、一人ひとりの習熟状況を確認し、指導に生かす。
- ・まとめ問題の正誤状況やこれまでの学習状況から、一人ひとりの苦手な学習内容の問題が出題されることを生かし、基礎学力・応用力の向上につなげる。
- ・一人ひとりが「ちょうど解ける」問題が出題されたり、自分の苦手な学習内容がどのくらい解消されたかが分かたりする機能を生かし、児童生徒の学習意欲の向上につなげる。
- ・教員が復習させたい範囲と取り組み時間を設定すると、一人ひとりに最適な課題を配信することができるので、家庭学習や長期休業中の個別の課題として活用する。



### 事例4

### インタビュー対象の選択

学習の個性化

学 年	小学校 第6学年	教 科	総合的な学習の時間「夢の相談室」
単 元 の 目 標	仕事について調べたり、働く人と関わったりする活動を通して、社会には、人々を支える多くの仕事があることや、働く上でそれぞれの考え方や生き方があることを理解し、自分の将来に向けての課題を自ら設定し、課題の解決に向けて試行錯誤するとともに、自己の生き方について考えることができるようにする。		

取 組 場 面	【情報の収集】 身の周りの人の仕事について調べるために、インタビューを計画・実践する場面
---------	---

個別最適な学びへ向けた工夫

- 一人ひとりの興味・関心、調べたい方向性をもとに、駅前で街頭インタビューする対象を選択
- ・ 駅に来ている人
  - ・ 駅で働いている人
  - ・ 駅にある店で働いている人

学習内容の深まり・広がり

- ・「好きなことを仕事にしている人は、その仕事を長く続けている。」
  - ・「『働くこと』で大切なのは、人のためにという思いや人との関わりだ。」
- 次の課題へつなげる



令和5年度 学力向上に係る効果的な取組事例

# 「八潮スタンダードを活用した個別最適な学び」

八潮市教育委員会



## 八潮スタンダードを活用した授業改善



八潮市では、学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」を実現する為に、「八潮スタンダード」(目指すべき授業展開を示したモデル)を活用した授業改善を推進しています。教師主導型、説明中心の授業から脱却し、児童生徒の主体的で協働的な学習活動を保障します。

- 自分の関心があることに取り組む【個別最適】
- 友達と考えた内容を話し合う【協働的な学び】
- 多様な考えに触れる中で、自分の考えをより最適なものに変容させる【個別最適・協働的な学び】



事例

指導の個別化を図った授業実践

- 教科名 【算数】 ○単元名【四角形と三角形の面積】
- 目標：平行四辺形の性質に着目し、面積の求め方を考え、説明することができる。

問題

下の平行四辺形 ABCD の面積は何 $\text{cm}^2$ ですか。

課題

平行四辺形の面積はどのように求めればよいのだろうか。

<学習形態>

- ①個人 ②トリオ・ペア ③先生と

<学習方法>

- ①タブレット ②ワークシート ③ノート



八潮スタンダード (学習の流れ)

考える

段階における  
個別最適な学習

- 教材や目標に応じて、一人でじっくりと考えたり、学習形態を児童生徒が選択したりしています。
- ICTを活用して、学習方法を児童生徒が選択します。
- 協働的な学びで、自分や集団の力を高めます。
- 自力で課題解決した児童生徒は、友達と意見交換したり、友達をサポートしたりします。

# 「『個別最適な学び』を目指した取組事例」

## 八潮市立中川小学校

手立て1



5年生 算数科「比べ方を考えよう」

○個別最適な学びへ向けた工夫

### 算数科全クラス TT 指導



TT による個に応じた指導の充実を図っている。校内研修で TT マニュアルをもとに役割分担を明確化し、日々誰一人取り残さない授業を目指している。

○本時で取り扱う算数科の見方・考え方

異種の2量の割合としてとらえられる数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を図や式などを用いて考え、表現すること。

【成果】

個に応じた指導を充実させることができた。また若手がベテランの教育技術を実践的に学ぶ場にもなった。

【課題】

経験年数の違いによる TT ペアの質の差改善のために役割分担表を作成し、さらなる授業の充実を目指す。

手立て2



3年生 算数科「わり算を考えよう」

○一人一台端末を生かした個別最適な学びへ向けた工夫

### eライブラリ (AIドリル)



授業内では適用問題で全員が達成を目指す問題が終了した児童から AI ドリルで個々の学習状況に応じた学習を行っている。授業外では家庭学習や学習タイムで活用している。

○本時で取り扱う算数科の見方・考え方

余りのある除法の問題場面で、余りをどのようにとらえなければいけないかという余りの意味や処理に着目し、図や式などを用いて考え、表現すること。

【成果】

適用問題ではやくできた児童が休むことなく授業時間内いっぱい自分のレベルに合わせた学習ができた。

【課題】

様々な AI ドリルから効果的な教材を選択し、授業内外でさらに活用できる環境を整えていく。

## 指導の個別化

【学習内容の確実な定着】

必要に応じた重点的な指導、指導方法等の工夫

協働的な学び

個別最適

な学び

## 学習の個性化

【学習を深め、広げる】

一人一人に応じた学習活動・学習課題の提供

図 (加藤 2022 『個別最適な学び』を実現する算数授業のつくり方) から引用 言葉 (『中教審第 228 号』から引用)

手立て3



2年生 算数科「九九をつくろう かけ算(2)」

○個別最適な学びへ向けた工夫

### 学びあいタイム (学習形態の工夫・選択)



「自力解決」場面において児童が課題解決の方法を選択できる学習環境を整えている。基本的に児童は自分でやってみたと【①他のやり方がないか考える。②友達と意見交換をする。③悩んでいる友達のサポートをする。④先生と考える。】から誰かの指示で動くのではなく、自分の達成状況に応じて学習形態を選択する。この際、指導者は机間指導で指導に生かす評価をしながら練り上げに向けた準備を TT で協力して行っている。



○本時で取り扱う算数科の見方・考え方

九九を数量の関係に着目して構成する際に、前単元までに活用してきたに関する性質(乗数が1増えると積は被乗数分だけ増える)やきまり(被乗数と乗数を入れ替えても積は変わらないなど)を用いて、図・式・具体的な操作・言葉での説明などの算数的活動を関連させて考え、表現すること。

【成果】

手を挙げて待つ児童やわからずずっと悩む児童が徐々に減り、課題解決のために話し合ったり、交流したりすることができるようになってきた。

【課題】

これまで行ってきた学習形態(ペア・トリオなど)とのバランスを授業ごとに変え、「子供が」主語の授業をさらに充実させる。

## 令和5年度 学力向上に係る効果的な取組事例

「一人残らずすべての子の可能性を引き出す

授業設計・指導法の在り方」

### 久喜市教育委員会・久喜市立久喜北小学校

#### 「個別最適な学び」を目指した取組事例

本校では、研究主題を『一人残らずすべての子の可能性を引き出す授業設計・指導法の在り方に関する研究～「久喜市版未来の教室」構想を踏まえて～』とし、

仮説1「久喜市版未来の教室」構想を踏まえて、目の前の児童に寄り添った指導法を展開することで、児童がより学習効果を実感できるだろう。

仮説2「久喜市版未来の教室」構想を踏まえて、児童一人一人の学習状況を客観的かつ形成的に把握することで、一人残らずすべての子の可能性を引き出す学びの提供・支援へとつながるだろう。

と、2つの仮説を立てて、研究を進めて参りました。その取り組みの一部を以下に述べます。

#### 事例1 ▶ 学習効果や成長を実感でき、次の学びへとつながる振り返り

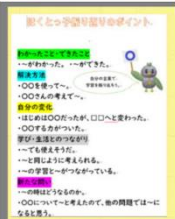
○個別最適な学びへ向けた工夫

- ・「わかったこと・できたこと」「解決方法」「自分の変化」「学び・生活とのつながり」「新たな問い」の5つの視点を提示し、内容を明確にして振り返りを行いました。児童からは、「振り返りをすると、学習したことが頭に残る」「練習問題を解くときなどに生きる」「自分の学び方に気づくことが出来る」などの声が聞かれました。
- ・Google のアプリやオクリンクなどを使用して学習成果物や振り返りをポートフォリオ化しました。単元の学習内容をいつでも児童が見られるので、これまでの学習を振り返って次の学びに活かす姿が見られました。

**取組の具体** 仮説1に関わること

学習効果や成長を実感でき、次の学びへとつながる振り返り

振り返りの視点



**取組の具体** 仮説2に関わること

学習成果物や振り返りのポートフォリオ化

オクリンク カルテ オクリンク単元列車



#### 事例2 ▶ 授業中の児童の取り組みを素早く把握し、個に応じた学びの提供や支援を実施


○個別最適な学びへ向けた工夫

- ・適用問題について、児童がこれまでまるつけを待ったり、列に並んだりすることがないように、解答をいつでも見られるようにしました。間違えやすいポイントなども記載しました。また、デジタルのヒントカードの送付も行いました。必要な児童に個別に送ったり、全員に送付しておいて必要な児童が自分で判断して見たりするなど、状況に応じて活用しました。

**取組の具体** 仮説2に関わること

授業中の児童の取り組みを素早く把握し、個に応じた学びの提供や支援を実施

適用問題の解答を送付 ヒントカードの送付




- 本校では、AIドリルのキュビナを活用しています。キュビナは、児童の解答内容や解答時間等を分析し、その児童の理解度に合った問題を出題してくれます。ヒントや解説なども見ることができるので、習熟の場面で多く活用しました。また、児童の解答状況も全て教師が把握できるので、児童に合わせて支援の声掛けを行ってきました。夏休みなどの長期休業中の宿題にも活用しました。

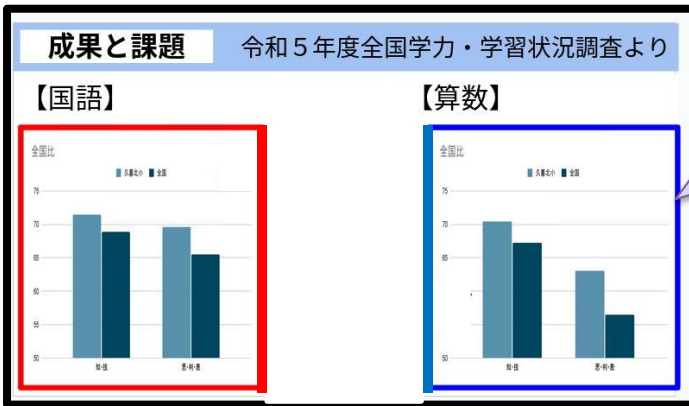
**取組の具体** 仮説2に関わること

児童の回答状況の分析によって児童一人一人の課題を把握、その子に合わせて問題を提供

Qubenaによる復習問題配信



**成果と課題**



全国学力・学習状況調査では、国語・算数共に、知識・技能、思考・判断・表現において、全国を上回った。特に、思考・判断・表現については、知識・技能よりも大きく上回っている。個別最適な学びの実現によって、児童一人一人の資質・能力の育成が出来たと捉えている。

埼玉県学力・学習状況調査では、5年生は、「国語・算数ともに学力レベルが伸びている」が31.6%、「国語・算数どちらかの学力レベルが伸びている」が57.9%と9割近くの児童が国語・算数のどちらかで学力をのばしている。6年生は、全ての児童が国語・算数どちらかの学力が伸びている。

**成果と課題** 令和5年度埼玉県学力・学習状況調査より

学力の伸びの状況（個人単位での伸び）

	国語・算数ともに学力レベルが伸びている	国語・算数どちらかの学力レベルが伸びている
5年生	31.6	57.9
6年生	60.0	40.0

**成果と課題** 令和5年度全国学力・学習状況調査より

**【質問紙より】安心・安全な学習環境について**

質問番号	質問事項	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
(6)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていますか											
選択数				92.0	8.0	0.0	0.0					0.0
割合				92.0	8.0	0.0	0.0					0.0
(10)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか											
選択数				60.0	39.0	0.0	0.0					0.0
割合				60.0	39.0	0.0	0.0					0.0

全国学力・学習状況調査では、「先生は、あなたのよいところを認めてくれますか。」の質問項目で全ての児童が肯定的に回答している。安心・安全な学習環境のもと、子どもたちは落ち着いて学習に取り組むことができていると考えている。



令和5年度 学力向上に係る効果的な取組事例

## 認め合い、高め合い、未来を切り拓く児童の育成 白岡市教育委員会・白岡市立白岡東小学校

### 「個別最適な学び」を目指した取組事例

#### 事例1

○教科名 算数科

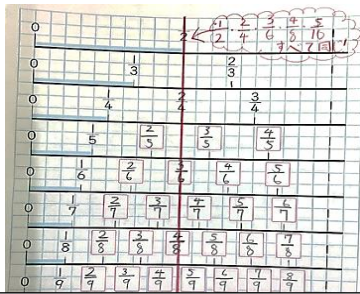
○単元名 「分数をくわしく調べよう」第4学年

○身に付けたい力 異分母の分数の大小関係について理解し、説明することができる力

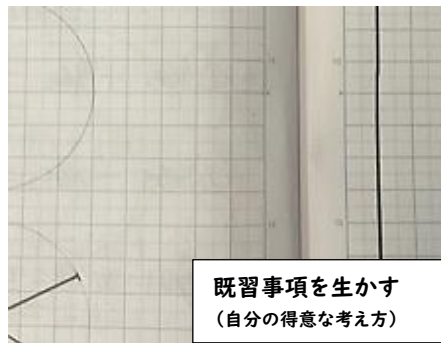
○個別最適な学びに向けた工夫

#### ① 自分に合った方法を選択して、課題解決を目指す

「分母がちがう分数はどうすれば比べることができるのだろうか」という課題に対して、子供たちが自分に合った解決方法を選択して自力解決ができるように取り組んだ。子供たち一人一人に応じた「指導の個別化」を図ることをねらいとしている。



数直線(教科書に載っている方法)



既習事項を生かす  
(自分の得意な考え方)



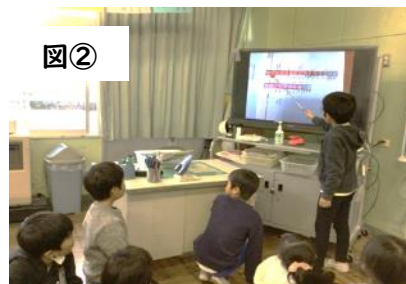
教師によるヒントタイム

#### ② 個別最適な学びと協働的な学びをつなげる「自由交流(みつばちタイム)」の活用

本校では、「認め合い、高め合い、未来を切り拓く児童の育成」を目指し、児童同士の学び合いに力を入れて取り組んでいる。自力解決ができた児童から、離席し自由に友達と交流できる「自由交流」の時間を設定している。図①のように、ペアで交流する児童や図②のようにモニターの前に集まり、自分の考えを発表する児童、図③のように友達の意見を聞いて、自分の考えの修正や付け足しなどをする児童など教室をダイナミックに活用して自分に適した学びができるように取り組んでいる。また、個別最適な学びが「孤立した学び」にならないように協働的な学びと効果的に連動する機会になることも期待している。



図①



図②



図③

#### 事例2

○教科名 算数科

○単元名 「分数と小数、整数の関係」第5学年

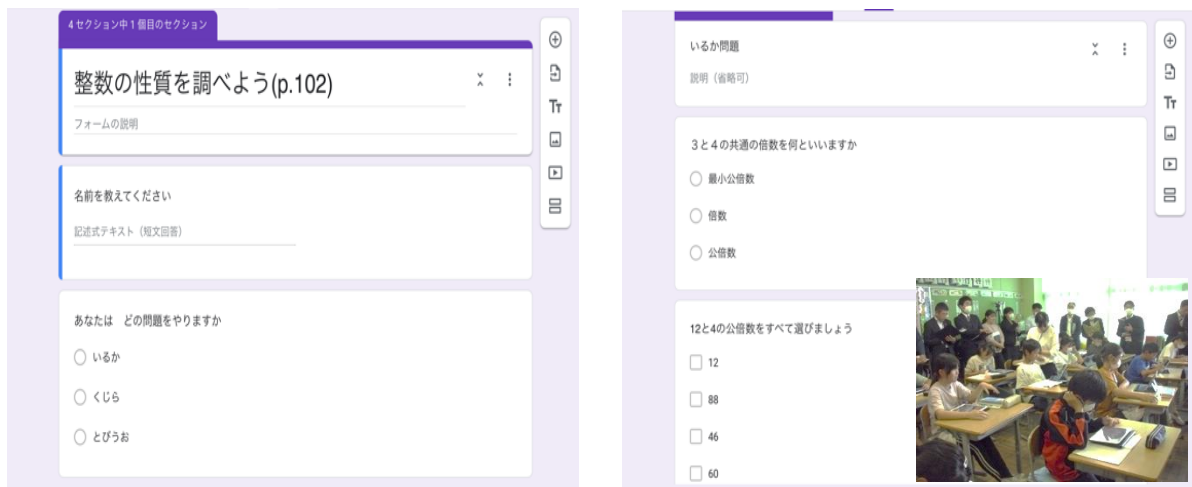
○身に付けたい力 整数の商を分数で表せることを活用し、分数を少数で表す方法を考え、説明する力

○一人一台端末を生かした個別最適な学びへの工夫

「Google フォームを活用して自分で問題を選択する」

学級全員が一律の適用問題を行うのではなく、Google フォームを活用して適用問題を作成し、自分に適した問題や挑戦してみたい問題を選択して取り組めるようにした。答えを選択すると、解答もわかるよ

うに設定した。子供たちが自分の理解度に合った問題を選択できるようになり、「学習の個性化」を図ることをねらいとしている。課題としては、単元ごとに適用問題を作成することが必要であるため、その時間が教師の負担となってしまふことである。一度作成すれば蓄積することができるので、研修の時間を活用して作成したいと考えている。



### 事例3

○取組場面 学校行事「市内陸上大会・運動会・全校徒歩遠足など」

○対象 全校児童

○取組の工夫

「一人一人の児童が「めあて」を設定し、振り返る活動を通して学校行事の充実を図る」

一人一人の児童が「めあて」を設定して学校行事に取り組めるように学校で共通した振り返りカードを作成した。学校行事を通して、一人一人の児童の成長につながるように、自分に適しためあてを設定して目標をもって学校行事に参加できるように工夫して取り組んでいる。学級活動(3)と関連を図り、より具体的で自分に適しためあてが意思決定できるようにしている。

活動後には、振り返りを行う。絵日記で記述する欄と学校行事のねらいに迫るために教師が設定した自己評価欄の二つで振り返りを行っている。振り返り後には、教師からの励ましの言葉や児童同士の相互評価をする時間を設けている。



学級活動(3)「自分を高める陸上大会」の板書と児童の様子

### 振り返りシート(高学年用)

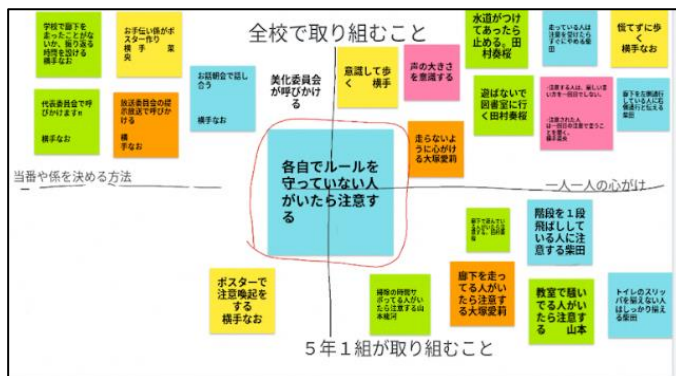


昨今では、働き方改革等で、学校行事の見直しや精選が迫られている。一人一人の行事をただこなすのではなく、教師は子供たちにどんな力を身に付けさせたいか考えることが大切である。そして子供自身が自分自身でめあてを決めて、学校行事に取り組む。さらに、活動を振り返り次の活動につなげるといふ一連の活動こそが、未来を切り拓く子供たちを育成することに欠かせないことである。



議題決定をスムーズに行えた児童が多くいた。また、本単元の目標として「集めた材料を分類したり関係づけたりして伝え合う内容を検討することができる。」ことが挙げられている。そのため、分類を行う際にも同様に Jamboard を利用した。教師が「全校で取り組むこと」「クラスで取り組むこと」「当番や係が行う事こと」「各自が行うこと」の4つの観点を示し、自身が考えた現状や解決方法がどの枠に当てはまるかを話し合わせた。

- 動かす際に根拠を言わせることで、分類の仕方を班で深く話し合うことができた。また、Jamboard を使用することで、気軽に付箋を動かせるため、児童らの意見の交流が活発になり、各自が持つ根拠に対して意見をもつ場面ができた。また、タイピングが苦手な児童は紙の付箋や口頭で伝えさせ、自身の意見が確実に反映されるようにした。

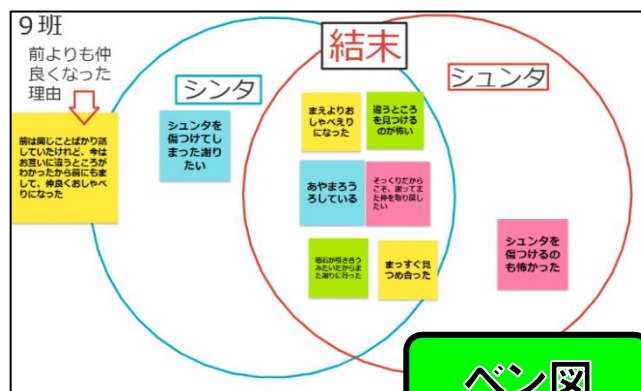


### 事例3

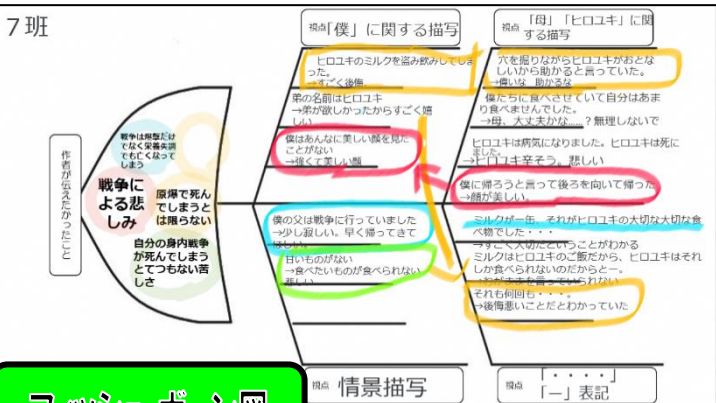
- 教科名 国語 (全学年)
- 身に付けたい力 他者と協働しながら考えを深めていく。

文学的な文章の読解は、「正解がないから難しい」と言われることが多い。また、「登場人物の心情の変化を捉える」という課題について考えるとなったときにも、個人で考えることが難しく手がつかないという状況もありがちである。

そこで、思考の枠組みとして思考ツールを活用することとした。本時の学習課題を達成するための思考スキルを選んだ上で、それに適する思考ツールを使うようにする。例えば、右図のベン図は「比較する」という思考スキルを可視化したもので、下図のフィッシュ・ボーン図は



ベン図



フィッシュ・ボーン図

「分析する・構造化する」という思考スキルを可視化したものである。

生徒は、個々に思考ツールを使って自分の考えを整理した後、それをもとに chromebook の Jamboard 上で他者と協働しながら考えを深めていく。思考の枠組みがあることで一人一人が何をどう学ぶかが明確となった。

ICTと思考ツールを組み合わせることによって、「個別最適な学び」の時間と「協働的な学び」の時間をより効果的に結びつけることができた。

# 令和5年度 学力向上に係る効果的な取組事例

## 『豊かな学びを推進する 幸手市GIGAスクール構想』と『個別最適な学び』を目指した取組事例

幸手市教育委員会

### 豊かな学びを推進する 幸手市GIGAスクール構想

子供たちが未来社会を切り拓くために、生きて働く「知識及び技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養が求められています。

このような資質・能力は、毎日の授業の中で意図した実践を繰り返しながら、義務教育の中で育成していくことが必要です。また、GIGA スクール構想で整備された一人一台端末を効果的に活用することで、より一層、資質・能力が育成されていくと考えています。

そこで幸手市では、以下の資料等を作成し、教職員・保護者・児童生徒等に広く周知するとともに、確実に活用するよう働きかけております。

令和5年度 豊かな学びを推進する幸手市GIGAスクール構想 グランドデザイン

目的は、**豊か**な学び、**個別**最適な学び、**協働**的な学び、**主体的・対話的**な学び、**深い**学び、**学びを人生や社会に生かそうとする**学び、**学びに向かう力、人間性等**の涵養を促すことである。

豊かな学びで未来を拓く

原簿生徒に育成する力

教職員の取組

本館に収録した資料の活用



[グランドデザイン](#)

幸手市 GIGA スクール ガイドライン

令和4年5月 幸手市教育委員会

[ガイドライン](#)



幸手市教育委員会

現在の課題

幸手市立市立小学校の取組

各校の取組



[各校の取組](#)

幸手スタンダード授業5 with GIGA

主体的・対話的で深い学びを実現する授業

心身のスイッチ

問題・課題を知る

一人で見え、共に深める

まとめ

振り返り

定着・発展

幸手市教育委員会



[幸手スタンダード授業5 with GIGA](#)

今後も、日々の授業等で、一人一台の学習者用端末の環境を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現し、主体的・対話的で深い学びを推進し、「豊かな学びで未来を拓く」教育を目指しています。

## 「個別最適な学び」を目指した取組事例

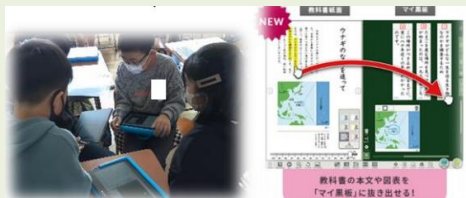
### 事例1

- 教科名 国語
- 単元名 小学校第5学年「グラフや表を用いて書こう」
- 身に付けたい力

- ・文章中に用いられている図表やグラフなどが、文章のどの部分と結び付くのかを明らかにすることによって、必要な情報を見つけたり、論の進め方を捉えたりする力
- ・自分の学びを振り返りながら、読み手が納得できるような意見文を粘り強く書こうとする力

#### ○一人一台端末を生かした個別最適な学びへの工夫

- ・身に付けたい力を育成するために、デジタル教科書の機能（デジタル上の紙面から文や挿絵を抜き出して貼り付け、自分の考えをまとめられる機能）を活用した。
- ・児童がデジタルポートフォリオを継続的に残していくことで、児童自身が学びを振り返り、次の学びに向かえるようにした。



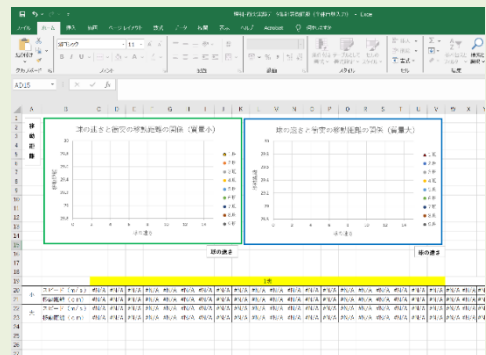
### 事例2

- 教科名 理科
- 単元名 中学校第3学年「仕事とエネルギー」
- 身に付けたい力

- ・運動の規則性について、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、物体の運動の規則性や関係性を見いだして表現する力
- ・探究の過程を振り返る力

#### ○一人一台端末を生かした個別最適な学びへの工夫

- ・球の速度と衝突による移動距離を入力する Excel ファイルをクラウドで共有することで、実験結果の共同編集を可能にした。
- ・実験結果を即時共有することで、各生徒の思考が可視化され、教師の適切な支援に繋げることができた。
- ・生徒は、他のデータを参照することが容易となり、試行錯誤を繰り返しながら、規則性を見いだしたり、外れ値の補正を行ったりすることができた。



[幸手中学校における実践で使用したデータです。御自由に DL して御活用ください。](#)



## 2. 「協働的な学び」の充実を目指した取組事例

### 事例4 自学・自習

○教科名 社会

○单元名 6年「世界に歩み出した日本」

○身に付けさせたい力

仲間と協働的に調べ学習を行い、課題解決する力

○協働的な学びへ向けた工夫

・子供達が協働して学習を進めやすいよう、学習の基本的な流れはいつも同じにしている。

- (1) 本時の課題を全員で確認する
- (2) 課題を解決するために調べることを考える
- (3) 調べる（役割分担する、同じ内容を違う媒体で調べる等）
- (4) 分かったことを黒板にまとめていく
- (5) 課題に正対したまとめを考える
- (6) 本時の学習をふり返る



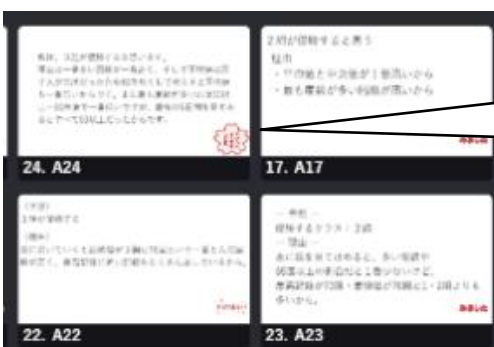
### 事例5 ミライシード「オクリンク」「ムーブノート」の活用

○取組場面 情報共有・意見交換

○対象 全学年

○協働的な学びへ向けた工夫

- ・児童はお互いの書いたもの、作ったものを自由に見ながら、参考にしていく。
- ・一覧で見る、いくつかの考えを比較する等、学習場面に合わせた使い方をする。
- ・それぞれの進度を可視化することで、助け合いや学び合いを行う。
- ・コメント機能を使って意見交換をする。



教師からの評価を見て、参考にするものを選ぶこともできる

初発の感想をスプレッドシートに同時入力し、共有した場面



## 3. 成果と課題

◎様々な学習の仕方を模索し、新たな学びのスタイルを見つけることができた。

◎教師が予想していた以上に子供達は主体的に学習を進めることができた。

△各学年の発達段階に応じた「学び方の系統性」を学校全体で確認する必要がある。

△一斉授業以上に事前準備や個々の見取りが大切。学習カード等を新たに作成しなくてもよいようにデータを共有していく。



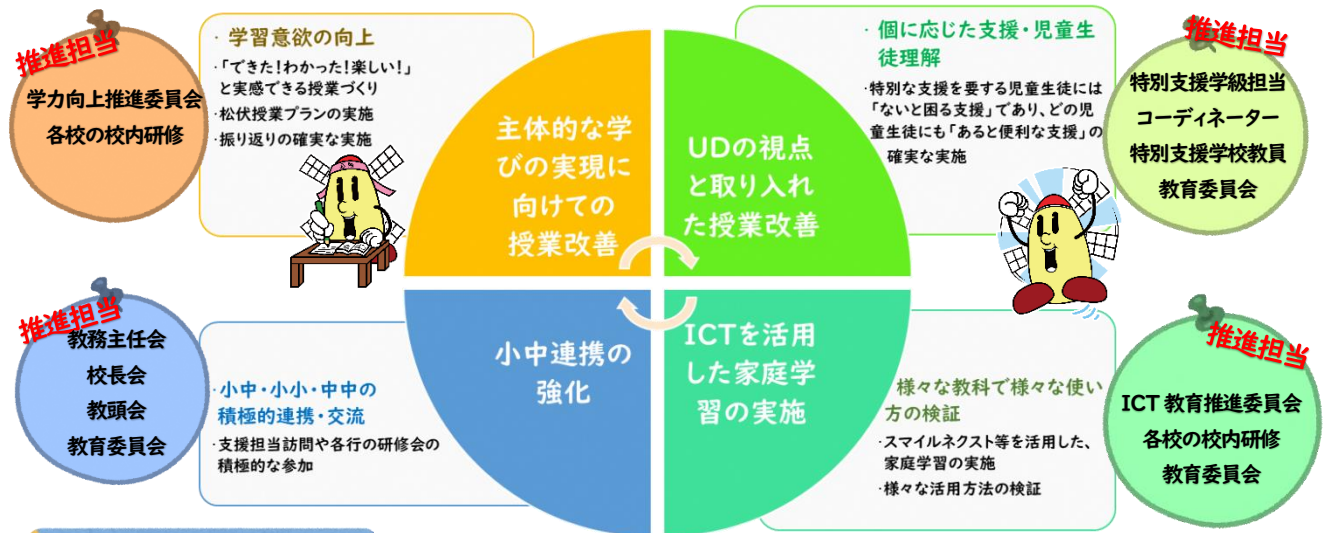
# 令和5年度 学力向上に係る効果的な取組事例

## 全ての児童生徒が安心して参加し「わかった!・できた!」と実感できる授業づくり 松伏町教育委員会



松伏町では今年度、以下の4つの視点について重点的に取り組み、子どもたちにとって「わかった!できた!楽しい!」と思える授業づくりをめざして「学力向上スタンダード」を作成しました。

松伏の5校が、子どもたちの「わかりたい」「できるようになりたい」という思いや願いを大切にしながら授業を進めるためには「個に応じた指導や支援」＝「個別最適な学び」が重要だと考えます。そして、個別最適な学びが実現できれば、子どもたちの「学習意欲」「自己効力感」をより一層向上させることができると考えます。



### 1 全校共通の指導の視点

理解をしてくれる人たちがいることで  
安心して SOS が出せる環境づくりが大切です。

### 取組チェックシート 1

★すべての教科

学習過程	学習意欲の向上に向けての取組	
つかむ	必要感のある導入	興味・関心を高めるための工夫をする (デジタル教材含む) 児童生徒とのやりとりを通して問題場面を理解できるようにする (教師はファシリテーターとしての役割)
	課題をたてる	児童生徒とのやりとりから課題を設定する 「5W1H」を意識した課題となっている
考える	指導の個別化	少人数やTTによる指導、ヒントカードなど、児童生徒一人一人に対応し、個に応じた手立てを講じている
	学習の個別化	いくつかの学習方法 (ノートやプリント、タブレット) を用意し、児童生徒が選択できるようにしている
深める	思考を深める話し合い活動	ねらいをもってペア・トリオ・グループ等の活動や全体での発表を取り入れ、思考が深まる手立てを講じている
	発表	ペアやグループ、全体で考えを発表する機会を設けている 小黒板やICTの活用をし、思考が深まる手立てを講じている。
まとめる	児童生徒とのやりとり	教師の言葉でまとめるのではなく、児童生徒の気づきや発言を大切に、やりとりを通して学習のまとめを行っている
	課題と正対	課題に正対したまとめとなっている
	適期問題・発展問題	学習内容を生かして、解くことのできる問題を提示し、学習の理解度を確認したり、さらに理解を深めたりすることで、意欲を向上させる
振り返る	時間の確保	「振り返る」活動の時間をしっかりと確保している
	積み重ね	毎時間の振り返りを積み重ねて行い、学習の繋がりを意識したり、自身の成長を感じたりできるようにしている
	観点を意識した振り返り	めあてや課題に沿って、3つの観点を意識した振り返りを行っている
3つの観点	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」	

子どもたちが本時の学習イメージできて、「考えてみたい」「解いてみたい」「ワクワクする」と思えるような導入をしていきたい。

子どもたちが、意欲的に学習参加してほしい。そのためにも自分に合った学び方の選択を、安心してできるように準備をしていきたい。

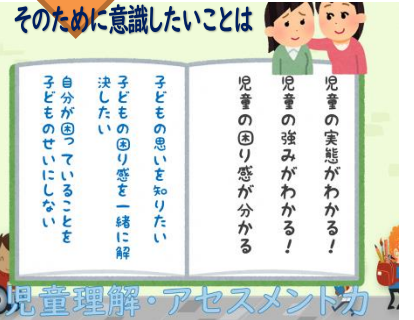
子ども自身が学びの成果を感じられるような振り返りができるようにしたい。そのためにも時間の確保や課題の明確化が必要。

## 取組チェックシート 2

★すべての教科・学校生活全般

UDの視点	具体的取組例（一部）
児童生徒理解	困り感を抱えている子の把握している
	支援が必要な子の具体的な困り感がピックアップできている
	具体的支援方法を考え、取り組んでいる
学級経営	叱る言葉より、褒める言葉の方を多く使用し、指導している
	どの児童生徒も安心して過ごすことができる学級になっている
	困ったことがあったら、SOSが出せる学級になっている
視覚化	お互いの長所や短所を理解し、必要に応じて助け合える人間関係ができています
	言葉だけの指示にらず、板書等を効果的に活用できている
	チョークの色を工夫して使用できている（UD用のチョークでない場合は、赤は見えにくい）
動作化	一日のスケジュール等がわかるような掲示物がある
	発表場面で聞くだけの時間が長ならないような取組の工夫をしている
	発表物を利用して考えることができる支援を取り入れている
焦点化構造化	1時間の授業で聞いたまま、座ったままの授業にならないよう工夫している
	集中力の持続が難しい子に、必要な時間帯に「動き」を取り入れた支援をしている
	めあて・まとめ・振り返り等が板書を見れば、すぐにどこに書いてあるのかわかる
指示方法	子供たちにとって授業のめあて（取り組む内容）が焦点化され、明確になっている
	1時間の授業の中に「山場」があり、メリハリのある授業になっている
課題選択	長い文章で伝えず、短く明確に伝えている
その他	授業や宿題など、自分に適した方法で学習ができるよう、「学びの選択」の場面を取り入れている
	マイナスな言葉を使わないよう心掛けている 例) まだできない、また聞いている、どうせできない、やる気がないのか 等

ユニバーサルデザインって **安心安全**  
 特別な支援を要する子供には「ないとする支援」であり、どの子供にも「あると便利で・役に立つ支援」である。  
 その結果として…  
 すべての子供たちの  
 過ごしやすさと学びが  
 向上します↑



全ての教科において、指導案を作成する際にUDの視点を記載することになっている。また、教育委員会や特別支援学校教諭等が通常学級を定期的に巡回訪問し、支援・指導を行っている。

学び方の選択・学ぶ場の選択ができることが  
 安心な学びにつながります！

## 2 ICT を活用した個別最適化の実践

### 1 授業の活用



#### 算数

- 自分の考えを友達に伝え、深める時間
- 自分の考えを言葉だけで伝えられない子は視覚的な材料があると表現できます。また聴覚情報のみでは理解できない子もわかりやすくなります。

#### 英語

- 英語を話す・聞く力をつける時間
- 一人一人がデジタル教科書の英文を見ながら自分の発音を録音し、聞き返す等、自分のペースで繰り返し練習をすることができます。また、英文のスピードを変えながら英語を聞きとる力をつけることもできます。



#### 国語

- おすすめの本を紹介するための練習の時間
- 本の紹介をプレゼンしたものを録画し、それを振り返りながら改善していきます。また友達とも見合いながら、アドバイスをもらって良いものを作ります。



### 2 相談室や適応指導教室での活用



相談室から、自分のペースで、オンライン授業に参加したり、参観したりすることができます。集団が苦手な子など、個に応じた学びの支援が可能になります。また授業に参加するだけでなく、グループクラスルームでの課題のやりとりやドリル学習が可能です。AI が本人の力に適した問題を選択もしてくれます。

### 3 家庭学習での活用



- ドリル学習（AI 機能の活用）
- 動画撮影機能を使った音読や英語のスピーキング等の取組と提出
- カメラ機能を使った月の観察記録や季節の自然の記録等
- ☆学び方の選択が可能

#### 【実施することでの児童・生徒の姿】

- 自己理解をし、自分に合ったが学びができることで安心して取り組むことができます！
- 基礎学力のアップにつながります！・学習に対する自信が芽生え、自己肯定感が高まります！

# 令和5年度 学力向上に係る効果的な取組事例

## 「学びを深めるための個別最適な学びと協働的な学びの 一体化を図るための実践事例」

吉川市教育委員会

### 事例1 低学年児童の思考を補助するICTの活用事例

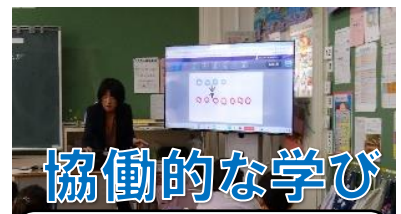
学校種：小学校  
学 年：1年生  
教 科：算数

1年生でもやり方さえ学べば、ICTを活用した  
個別最適な学びを進めることが可能に。

内 容：ミライシードのオクリンクを使用し、算数で「はじめからある数」と「あとから増える数」を色分けして視覚的に捉えさせて考えた。また、図で考えたあとには、文章もデジタルで残し、全体で共有した。



個別最適な学び



協働的な学び

自分のシートに図  
で表す

色分けして確認  
後、教師へ提出

文章で表現し、その  
後ペアで発表し合う

対話的な学習のあとに何人  
かが全体で発表し、教師と  
共通理解を図る

### 事例2 デジタル・ポートフォリオを活用した探究的な学びの推進

学校種：小学校・中学校  
学 年：小学6年生、中学3年生  
教 科：総合的な学習の時間

自分の学びの足跡を端末に記録しておくこと  
で、様々な教科に既習事項を活かす。

内 容：小中学校共に、**普段の学習記録を Google スライドにまとめ、蓄積している。記録したデータには、日付や内容等の名前をつけて整理しておく。**自分が活用したいときに必要な情報を引き出し使用できるようにしておくことで、主体性をもって学習に取り組むことができる。

#### 小学6年生



探究的な学び方を学ぶ



吉川市のまちづくりを  
学ぶ



校外学習で市外のまち  
を学ぶ

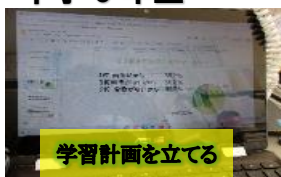


よりよいまちづくりについ  
て考える



自分たちの提案を校内  
や校外に向けて発表する

#### 中学3年生



学習計画を立てる



校外学習で自分の学習  
計画に必要な情報を集める



学習計画に沿って  
自分なりのまとめを行う



個で学んだ内容を集団で  
まとめる



学年内で発表

### 事例 3

## 個別最適な学びと協働的な学びを充実するための小中一貫で取り組むデジタル・シティズンシップ教育

学校種：小学校・中学校

学 年：中学 2 年生×小学 5 年生

教 科：総合的な学習の時間

内 容：中学生が総合的な学習の時間で学んだデジタル・シティズンシップについて、実体験や自分の考えを含めながら、同じ中学校区の小学校 2 校を訪問し、小学生に対し、プレゼンを実施した。

個別最適な学びを協働的な学びへとつなげるために小中一貫を活用。

中学生がデジタル・シティズンシップについて個人で学びを進める

中学生同士で個々の学びをまとめ、グループで発表計画を立てる

小学生向けに伝える内容を精査する

小学校を訪問し、発表を実施した後小学生と話し合いを実施し、さらに学びを深める



このグループでは、中学生が自分の実体験も交えながら SNS の特性について発表を実施した。

### 事例 4

## 生成 AI を活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

学校種：小学校

学 年：5・6 年生

教 科：総合的な学習の時間

内 容：児童が、桃太郎の物語を読み、自分が桃太郎の立場に立ち、「イヌ」「サル」「キジ」の 3 匹の家来の活躍度を評価した。自分が行った評価をグループで説明し、意見交流を行った。その後、chatGPT が出した AI の考える 3 匹の家来の評価と自分の出した評価を比較し、生成 AI の回答が全て正しいわけではないことや、生成 AI がただ情報を調べるためのツールではなく、自分の考えを深めることができるという活用方法の広がり进行学习した。

生成 AI を自分の考えを確かめる場に。



桃太郎の物語を読み、3 家来の評価を実施



評価は Google スライドにまとめ、教師へ提出



グループで自分の考えを発表し、学びを広げ、深める



chatGPT の回答を確認し、自分の考えと比較する



最終的な自分の考えを Google フォームに入力し、教師に提出

作業データを Google classroom で配信し、児童がいつでも他の児童の考えを確認できるようにした。協働的な学びのあとに、個別で学びを深める場面を設けた。

令和5年度 学力向上に係る効果的な取組事例

# 「個別最適な学び」を目指した取組事例 について

## 三郷市教育委員会

### 指導力の向上・授業改善

## ～ICTを効果的に活用した授業の充実～

ICT活用を進めることで、児童・生徒が自ら学び方を選択する機会が増加。「個別最適な学び」、「協働的な学び」の一体的な充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指しています。

### 三郷市優秀教員表彰・受賞者による授業研究会

今年度は、小学校・社会、中学校・数学の授業を公開。個別最適な学び、協働的な学びを通して「主体的・対話的で深い学び」を実現する、優秀教員の優れた指導方法から多くの学びを得ました。

#### 事例1

○教科名：小学校「社会科」

○单元名：第6学年  
「明治の国づくりを進めた人々」

○身に付けたい力：

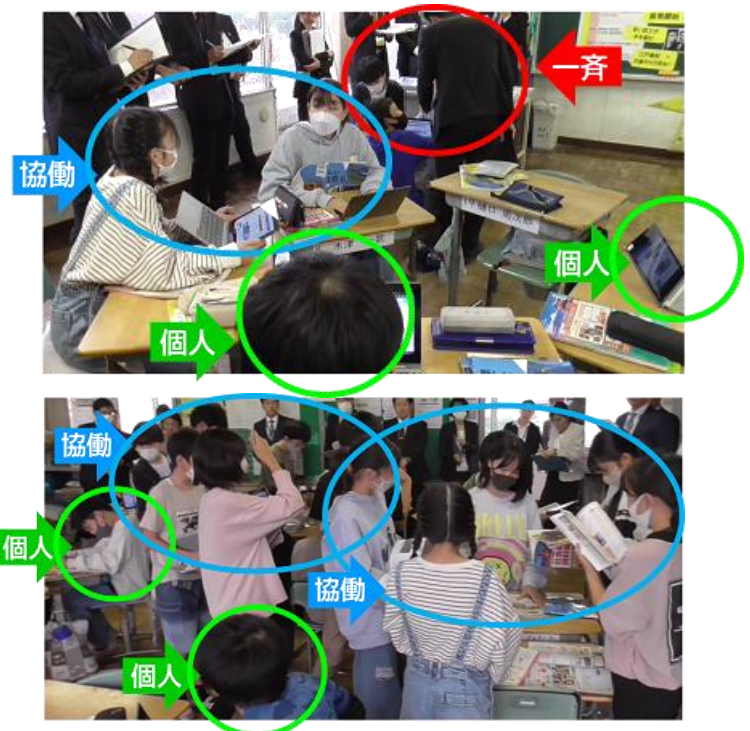
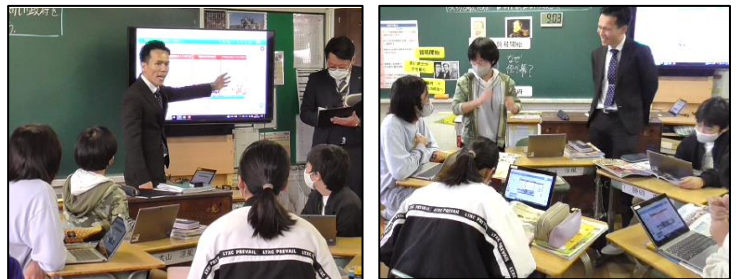
- ・開国により国内の生活が乱れたことや国外の情勢等について調べたことから、この頃の世の中の様子の変化について考え、説明することができる。〈思考力・判断力・表現力等〉

○一人一台端末を生かした個別最適な学びへの工夫：授業の複線化（下記写真参照）

教育のICT化により、複線型の授業（教師との一斉・個別最適な学び・協働的な学びを教室内で同時に行う）が、一層、実現可能になりました。

本時では、全員で課題を設定した後、教科書・資料集・書籍・インターネットを駆使して時代背景を調べ、各自がタブレット上のワークシートにまとめました。分からないところや疑問に思ったところは友達と話し合ったり、教師とともに解決の糸口を探ったりするなど、児童一人一人が必要な学び方を考え、選択し、一生懸命学習に取り組む姿が見られました。

なお、本市では、複線型授業の前提として、充実した学級経営、児童生徒同士・教師との確固たる人間関係づくりを大切にしています。



## 事例2

○教科名：中学校「数学科」

○单元名：第2学年「1次関数」

○身に付けたい力：

- ・式とグラフを相互に関連付けて考え、判断し、式とグラフの関係について説明することができる。〈思考力・判断力・表現力等〉
- ・式とグラフを相互に関連付けて考えようとしている。〈学びに向かう力、人間性等〉

○一人一台端末を生かした個別最適な学びへの工夫：グラフの視覚化（下記写真参照）

関数は抽象的な概念であるため、生徒がタブレットで表、式、グラフを相互に関連づけて考察し、具体的な事象や実験の結果を一次関数とみなして予想したり、その判断の根拠を説明したりすることができるよう工夫しました。タブレットを活用することで学習活動が増え、生徒一人一人が課題にじっくり向き合い、考えを深める姿が随所に見られました。



## 教員研修組織 **GIGA3・プロジェクト「すすめる研究部」**による授業研究会

ICTを効果的に活用した授業、児童・生徒の学習効果がより一層高まる授業の実現を目指し、市内のICT教育推進者が力を合わせて研究を進めています。

## 事例3

○教科名：中学校「特別活動」「道徳」

○題材名：第1学年

「家族との関わりを考え、  
思春期の自己を見つめよう」

○身に付けたい力：

- ・家族との関わりについて、自分の行動を振り返り、ゲストティーチャーの話聞いて友達と話し合いながら、よりよい関わり方を見いだすことができる。〈思考力・判断力・表現力等〉
- ・家族との関わりをよりよくするとともに、人間としての生き方についての考えを深め、実践していこうとしている。〈学びに向かう力、人間性等〉

○一人一台端末を生かした個別最適な学びへの工夫：オンライン対話（下記写真参照）

子育て中のお母様方（産休中の教職員等）にオンラインでインタビューし、自己を振り返り、家族に対する理解やよりよい関わり方につなげられるよう工夫しました。

「生命の尊さ」について、道徳の学習で保護者からの手紙を生徒全員に渡すなど、家庭の理解と協力が得られるようにしました。

